

会

報

社団法人 日本病理学会
〒113-0033
東京都文京区本郷2-40-9
ニュー赤門ビル4F
TEL: 03-5684-6886
FAX: 03-5684-6936
E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp
http://jsp.umin.ac.jp/

社団法人日本病理学会

第230号

平成19年(2007年)3月刊

1. Surgical Pathology Update 2007 (IAP) 参加者募集について

IAP 日本支部では Global standard に基づく Surgical Pathologists の育成と米国を中心とした外国の著名な病理医との交流をめざすことを目的に、希望者 50 名を募り、湘南国際村センターで 2泊3日の合宿により、講義実習を行う SPU を 2000 年から行っています。今年は 6 月 22 日(金) から 24 日(日) です。

テーマは、「GYN の病理と GI の病理」

Course Director: Steven G. Silverberg 教授

(Maryland 大学)

長村義之教授 (東海大学)

Faculty members: Henry D. Appleman 教授

(Michigan 大学)

加藤 洋先生 (癌研究会癌研究所)

田久保海誉先生 (東京都老人総合研究所)

清川貴子先生 (慈恵医大)

参加費は IAP 会員が 45,000 円、非会員が 55,000 円で、宿泊費、会場費、食事代、事前の病理ガラスライド配付、当日のハンドアウトなどを含みます。(社)日本病理学会の後援を受けており、病理専門医資格更新の際 10 単位が得られます。

受付は去年同様に先着順。セミナーの講堂の広さと椅子に限りがあるため 50 名の定員です。

参加希望者は、氏名、年齢、性別、所属、連絡先(住所、電話、FAX、e-mail)、IAP 日本支部会員か非会員、日本病理学会会員か非会員を明記の上、e-mail で申し込んで下さい。

連絡先 IAP 日本支部 SPU 事務局: 松原 修

(防衛医科大学校)

TEL: 04-2995-1507 FAX: 04-2996-5193

e-mail: matubara@ndmc.ac.jp

お知らせ

1. 第2回トランスポーター研究会について

日時: 2007年6月9日(土)~10日(日)

会場: 昭和大学旗の台キャンパス上條講堂

代表世話人: 楠原洋之 (東大院・薬・分子薬物動態)

事務局長: 小林靖奈 (昭和大・薬)

後援: (社)日本薬理学会, (社)日本薬学会

問い合わせ先:

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院薬学系研究科分子薬物動態学教室 内

第2回トランスポーター研究会代表世話人

楠原洋之

E-mail: kusuhara@mol.f.u-tokyo.ac.jp

TEL: 03-5841-4774 FAX: 03-5841-4766

http://www.jtra.jp/

2. 2007年電子顕微鏡技術認定試験について

会期: 平成19年10月13日(土)

会場: 3会場 東京(東京慈恵会医科大学)

京都(京都大学医学部)

福岡(産業医科大学)

連絡先: 日本顕微鏡学会事務局

〒112-0012 東京都文京区大塚3-11-6

TEL: 03-5940-7640 FAX: 03-5940-7980

E-mail: kenbiky@realize-at.jp

第1回 診断病理サマーフェスト

— 病理と臨床の対話 —

Diagnostic Pathology Summer Fest

Vol.1

テーマ： 婦人科病理と臨床

開催日： 2007年 8月11日(土), 12日(日)

会場： 東京大学医学部 鉄門記念講堂(教育研究棟14階)

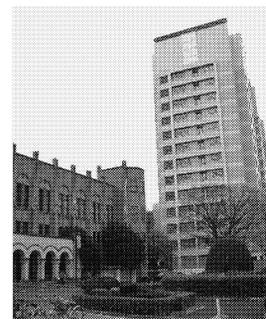
対象： 病理医, 婦人科医, 放射線科医

参加費*: 20,000円(研修医15,000円)

*懇親会費を含む

August 11, 2007

- 11:10 受け付け
- 12:00 子宮頸部腺系病変
病理(三上), 放射線(富樫), 婦人科(小西)
- 14:20 [休憩]
- 14:40 子宮内膜病変
病理(清川), 放射線(富樫), 婦人科(上坊)
- 17:00 [休憩]
- 17:20 子宮体部間葉系病変
病理(三上), 放射線(今岡), 婦人科(小西)
- 20:00 懇親会(カポ・ペリカーノ)



August 12, 2007

- 8:30 卵巣腫瘍
病理(清川)
- 10:00 [休憩]
- 10:20 放射線(今岡), 婦人科(磯西)
- 12:10 [終了]

この会は、病理と臨床の対話を行なおうとするものです。お互いの対話によって理解し合い、明日の臨床に役立てることを目的としています。臨床医は病理を、病理医は臨床を学び、両者を結びつけて理解します。病理医のみならず、婦人科医、放射線科医の先生方も是非ご参加下さい。

◎講師

- 清川 貴子 東京慈恵会医科大学 病理学講座 講師
- 三上 芳喜 京都大学医学部附属病院 病理部 講師
- 富樫かおり 京都大学大学院 医学研究科放射線医学講座(画像診断学・核医学) 教授
- 今岡いずみ 近畿大学医学部 放射線医学教室放射線診断学部門 講師
- 小西 郁生 信州大学医学部 産科婦人科学教室 教授
- 上坊 敏子 北里大学医学部 産婦人科 教授
- 磯西 成治 社会保険相模野病院婦人科腫瘍センター センター長
- (敬称略) 東京慈恵会医科大学附属青戸病院 産婦人科 助教授

主催：日本病理学会

第1回 診断病理サマーフェスト —病理と臨床の対話—

8月11日

11:10 受け付け 11:50 事務連絡

◎子宮頸部腺系病変

12:00 病理(三上芳喜)
良悪性の鑑別
13:00 放射線(富樫かおり)
画像でどこまで良悪性が鑑別できるか
13:30 婦人科(小西郁生)
悪性を疑う臨床所見/検査と治療
14:00 総合討論・質問
14:20 休憩

◎子宮内膜病変

14:40 病理(清川貴子)
腺癌と増殖症の鑑別/腺肉腫とポリープの鑑別
15:40 放射線(富樫かおり)
筋層浸潤, リンパ節転移はどこまで分かるか
16:10 婦人科(上坊敏子)
腺癌と増殖症の検査と治療
腺癌と増殖症の鑑別に病理医が迷う例の対処
16:40 総合討論・質問
17:00 休憩

◎子宮体部間葉系病変

17:20 病理(三上芳喜)
筋腫, 肉腫の鑑別
18:20 放射線(今岡いづみ)
画像でどこまで良悪性が鑑別できるか
18:50 婦人科(小西郁生)
筋腫と肉腫の治療
19:20 総合討論・質問
20:00 懇親会(カボ・ペリカーノ)

8月12日

◎卵巣腫瘍

8:30 病理(清川貴子)
比較的頻度の高い卵巣腫瘍の鑑別
10:00 休憩
10:20 放射線(今岡いづみ)
画像でどこまで良悪性が鑑別できるか
11:00 婦人科(磯西成治)
検査と治療法
11:40 総合討論・質問
12:10 終了

参加希望の方は、氏名、懇親会参加の有無、所属(学会、施設)、住所、電話番号、Fax、E-mailアドレスを明記のうえ下記に申し込み下さい。先着200名まで受け付けます。受付後参加費振込口座(郵便振替)をお知らせいたします。研修医は所属長の署名による証明が必要です(同時に証明書を郵送またはFAXして下さい)。

参加申込先： 社団法人 日本病理学会

〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-9 ニュー赤門ビル4F

TEL 03-5684-6886 E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp

FAX : 03-5684-6936

氏名	
	懇親会参加(する・しない)
所属学会	
所属施設・部署	
所属住所 (連絡先)	〒
電話	
FAX	
E-mail	

日本病理学会コンサルテーションガイドライン

(平成19年4月1日から適用)

1. 日本病理学会コンサルテーション事業

(目的) 病理診断に関して病理医相互の協力によって、診断の精度を高めるとともに、診療に役立つより多くの情報を引き出し、医療に貢献すること。

(基本方針) 病理診断の**最終責任は依頼者にある**ことを確認したうえで、日本病理学会が適切なコンサルタントの紹介、有益なコンサルテーション意見を与えること。

2. 依頼者の資格

依頼者は原則として日本病理学会員とします。会員以外の臨床医からの依頼も受け入れますが、その際には、担当病理医の了解を得たうえで、担当病理医の氏名・所属・連絡先を依頼書に明記して下さい。また病理診断書のコピーを同封してください。事務局より、担当病理医あてにも報告書のコピーを送付します。

3. 依頼者が送付するもの

(1) 所定用紙 (A, B 用紙)

- ① 本誌綴じ込みの日本病理学会コンサルテーション依頼用紙 (A, B) をコピーしてお使いください (学会 HP よりダウンロードもできます)。A 用紙に病歴 (臨床経過、治療・処置)、肉眼所見・切り出し図、特染、依頼者の病理診断を記載してください。症例の問題点など、記載しきれないときには、別紙に記載してください。必要があれば、肉眼写真、X 線写真、電顕写真なども送ってください。
- ② B 用紙はコンサルタントを選ぶために使用します。必ず記入のうえ同封してください。コンサルタントとして希望される方があれば、記入してください。
- ③ コンサルタントが使用する報告用紙 (C 用紙) は事務局で用意しますので必要ありません。
- ④ 患者の特定につながる情報 (受診医療機関名、氏名、イニシャルなど) は記載しないで下さい。病理診断に重要と考えられる情報 (顔面などの肉眼所見写真、生検日、手術日など) を用紙に記載もしくは添付する場合でも患者の特定につながらないようにご配慮下さい。病理診断書のコピーを添付する場合は当該部分を十分マスクしてください。

(2) ガラス標本

- ① HE 染色標本 1 セットおよび未染標本 10 枚前後をお送りください。免疫染色や特染なども必要に応じて同封してください。標本はコンサルタントの手元に保管され返却されません。
- ② ガラス標本が破損しないよう、十分注意してください。また封筒の破損、標本とケースあるいは標本同士の粘着が起らないようご注意ください。
- ③ プレパラートには、施設の標本番号以外の検体帰属情報は記載しないでください。新たに作製するプレパラートにはラベルは不要です。染色・ラベル貼付済みのプレパラートを送付する場合は、黒マジック等で十分マスクしてください。

(3) 返信用封筒

80 円切手を添付した依頼者宛返信用封筒を 1 枚同封してください。報告はコンサルタントから直接依頼者へ郵送されます。標本は原則として返却されません。標本の返却を希望する際には、その旨記載して標本返送用の特殊封筒を同封してください (切手添付のこと)。

(4) 手数料

あらかじめ 3,000 円を下記の郵便振替口座に払い込み (払い込み票通信欄に「コンサルテーション手数料」と明記のこと)、その払い込み票のコピーを同封してください。銀行振り込みをご希望の方、あるいは各施設独自の払い込み方法をご希望の方は病理学会事務局にお尋ねください。領収書が必要な場合は下記 5. のコンサルテーション係に申し出て下さい (郵便振込みの確認後になりますので多少時間がかかることを予めご了解下さい)。

郵便振替口座払込先： (加入者名) 日本病理学会 (口座番号) 00130-4-32817

依頼方法や個人情報の取り扱い等について不明の点があれば、事務局へ問い合わせして下さい。

4. 依頼者が了解しておくこと

コンサルタントの報告は通常 2 週間程度で返送されます。診断の**最終責任は依頼者にあること**に留意してください。コンサルタントには無報酬でお願いしてありますので、コンサルタントにとって過度の負担とならぬよう的確な依頼書の作成と標本の送付をお心がけてください。また、特染の無理な依頼、過度の枚数の標本の送付、所見の記載不備などが生じないようにご配慮ください。回答が遅れている時やその他の問い合わせは病理学会事務局までお願いします。

5. コンサルテーションの送り先

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-40-9 ニュー赤門ビル 4F
日本病理学会事務局内 コンサルテーション係
郵送の事故を防ぐため、簡易書留あるいは宅配便をお使いください。
電話：03-5684-6886 FAX：03-5684-6936 E-mail：jsp-admin@umin.ac.jp

6. コンサルタントにお願いする事項

- ① コンサルテーションを受けた場合は、速やかにご回答ください。ご自分の専門領域でない症例、お得意の分野でない症例の場合、あるいは時間的余裕のない場合には、お断りいただいて結構です。その場合には標本を速やかに日本病理学会事務局に着払いにてご返送下さい。その際適当なコンサルタントをご紹介いただけると幸いです。
- ② 長期出張等でコンサルトを引き受けられない期間はあらかじめ病理学会事務局にご連絡ください。
- ③ 報告用紙（C用紙）は原本を依頼者へ、コピーを事務局へお送りください。B用紙のコンサルタント記入欄に記入のうえ、B用紙は事務局宛に返送してください。
- ④ 依頼者へ E-mail で報告した場合でも、必ず郵送で報告用紙（C用紙）と B用紙を記入し事務局にお送りください。事務局に B・C用紙が郵送で届いた時点がコンサルテーション終了の日時として正式に記録されます。
- ⑤ 報告するにあたって、データの不明点などはご自由に依頼者にお尋ねください。
- ⑥ 臓器別チーム責任者による診断標準化の取り組みや、教育的症例の病理学会会員への供覧の企画などにご協力下さい。

7. 当該症例のプライオリティについて

コンサルテーション症例の学会や論文での発表に関しては、その出所である依頼者に優先権があると考えられます。コンサルタントが依頼症例を研究資料として使用する際には依頼者と患者の同意が必要です。その際には、依頼者にご協力をお願いいたします。また、依頼者が症例報告をする場合でもあらかじめコンサルタントとよく話し合ってください。

8. コンサルタント名簿（平成 19、20 年度）

秋山太 新井栄一 石川雄一 石黒信吾 石田剛 泉美貴 伊藤雅文 今北正美 入江準二 岩崎宏 岩田純
梅村しのぶ 大内知之 大倉康男 大島孝一 岡輝明 小川郁子 長村義之 小田義直 小幡博人 覚道健一
鹿毛政義 加藤良平 亀田典章 清川貴子 黒住昌史 黒田直人 小島勝 小森隆司 坂本穆彦 坂元亨宇
桜井孝規 佐々木恵子 笹野公伸 定平吉都 佐野壽昭 清水道生 下田忠和 白石泰三 新宅雅幸 城謙輔
鈴木正章 仙波伊知郎 園部宏 高田隆 田口尚 竹下盛重 武村民子 立山尚 田中祐吉 田丸淳一 津田均
土屋眞一 都築豊徳 堤寛 恒吉正澄 手島伸一 長尾俊孝 長坂徹郎 中里洋一 中島孝 中嶋安彬 長嶋洋治
名方保夫 中谷行雄 中西幸浩 中沼安二 中峯寛和 中村栄男 中村眞一 中村直哉 中山雅弘 仁木利郎
西川俊郎 野島孝之 橋本洋 長谷川匡 原一夫 久岡正典 比島恒和 平戸純子 廣川満良 廣瀬隆則 福岡順也
福田悠 福永真治 藤林真理子 北條洋 本間慶一 松寄理 松野吉宏 松原四郎 松本俊治 三上芳喜 水口國雄
湊宏 本山梯一 森永正二郎 森谷卓也 八尾隆史 安田政実 谷田部恭 柳澤昭夫 山口岳彦 山鳥一郎 吉川洋
吉野正

日本病理学会医療業務委員会
同コンサルテーション小委員会

A 用紙

Consultation No.:

受付日 年 月 日

日本病理学会コンサルテーション依頼用紙 A
(全ての項目について記載してください)

ふりがな 依頼者氏名:		依頼日: 西暦 年 月 日	
依頼者所属:		標本番号:	
病理学会: <input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 非会員		(注: ラベルの患者名や医療機関名はマスクすること)	
患者年齢・性別: (患者の受診医療機関名・氏名・イニシャルは記入しないこと) 年齢: 才 男 女 (いずれかに○印)			
臨床診断: 1. 2. 3.			
標本の種類: <input type="checkbox"/> 生検 <input type="checkbox"/> 手術 <input type="checkbox"/> 剖検 <input type="checkbox"/> 細胞診 <input type="checkbox"/> その他 (具体的にご記入下さい)			
臓器名:	部位:	採取日: 西暦 年 月 日	
臨床経過 (患者の特定につながる医療機関名などの情報は記載しないこと):			
治療・処置:			
肉眼所見:			
切り出し図:			
特染:			
問題点:			
依頼者の診断:			

B 用紙

Consultation No.:

受付日 年 月 日

日本病理学会コンサルテーション依頼用紙 **B**

ふりがな 依頼者氏名： 回答の送付先：〒	
電話： E-mail：	FAX：
(依頼者が非会員の場合) 担当病理医氏名： 所属： 連絡先：〒	
コンサルタント指定：□なし □あり (氏名 1. 2.)	

依頼者記入欄

コンサルテーションを希望する領域

(コンサルトを希望する臓器に該当する番号の□に✓を記入してください。コンサルタントを選ぶ上で必要です)

1□腫瘍 2□悪性リンパ腫疑い 3□非腫瘍 4□感染症 5□不明

01□感染症	10□胃	20□胎盤	28□神経変性疾患・ 筋肉
02□心・血管	11□腸	21□リンパ節・脾	28-1□神経変性疾患
03□口腔	12□肝	22□骨髄	28-2□筋肉疾患
04□頭頸部(唾液腺・ 鼻腔・耳を含む)	13□胆道・膵	23□下垂体	29□骨・関節
05□眼	14□腎・膀胱	24□甲状腺・副甲状 腺	30□軟部
06□縦隔	15□腎炎	25□副腎	31□皮膚
07□肺・胸膜の炎症性 疾患	16□前立腺	25-1□副腎皮質	31-1□腫瘍性皮膚疾患
08□肺・胸膜の腫瘍性 疾患	17□精巣・精囊・陰 茎・陰囊	25-2□副腎髄質	31-2□炎症性皮膚疾患
09□食道	18□外陰・膣・子宮・ 卵管	26□乳腺	32□小児
	19□卵巣・腹膜	27□脳・脊髄腫瘍	33□その他 ()

依頼者へ： A, B 用紙とも必要事項記入のうえコンサルテーション事務局へお送りください。

コンサルタント記入欄

A□ 臨床経過の記載が不備である B□ 肉眼所見・切り出し図が不備である C□ 問題点が具体的でない D□ HE 染色が良質でなく診断に支障がある E□ HE 切片・未染切片が厚すぎる F□ その他(コンサルテーション小委員会や事務局への意見など) ()
--

コンサルタントへ： C 用紙(報告用紙)に報告を記入しコピーのうえ、原本を依頼者へコピーを病理学会事務局へお送りください。本 B 用紙は事務局あてに返送ください。